

2 実践事例（2）

戸沢村立戸沢小学校

研究の目的

本校の実態として、ICT環境が整備されつつある中で、児童の学力定着の観点から、学習場面で、より効果的な児童のICT機器の活用と教員の指導スキルの向上が必要である。

情報活用能力を育成するため、各教科等の学習場面でICT機器をどのように活用するか、そのために必要なことは何かを明確にして実践する必要がある。そして、教科横断的な視点で育成した情報活用能力を発揮させ、主体的・対話的で深い学びにつなげていくため、本事業に取り組みたいと考えている。

実践紹介

特定の教科等において、より効率的・効果的な活用例

【小2 学級活動 タブレットにふれよう】

【ICT機器に初めて触れる場面】

- ・学校に1人1台のタブレットが導入され、子供達とタブレットの出会いの場面で、ICT教育マイスターがタブレットの使い方を教えた。子供達は、初めてのタブレットに興味津々で、意欲的に学習することができた。担任とICT教育マイスターが連携することで、専門的な指導と子供達の実態に合わせたきめ細かい指導を両立することができた。



【小4 社会 ごみのしよりと利用】

【情報を組み合わせて新たな意見を見出す場面】

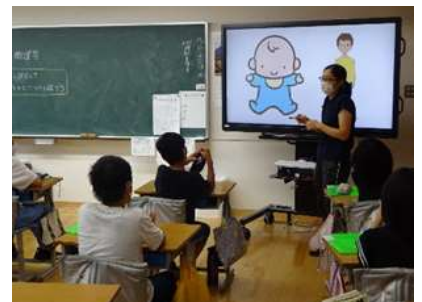
- ・ごみ処理の仕方について考える時に、タブレットのアプリ「ジャストスマイル」の「デジタルノート」の機能を使い、デジタル黒板に全員の考えを可視化した。これにより、自分の考えや友達のを明確に表現することができた。また、色別に考えの違いがわかるので、考えの変容や深まりに気づかせることができた。



【小5 図工 キャラクター作り】

【情報を整理して活用する場面】

- ・教科担任制の良さを生かして、中学校の教員が小学校の図工を教える場面で、デジタル黒板を使い、キャラクター作りのポイントを提示した。



【小3～6 社会】

【情報を集める場面】

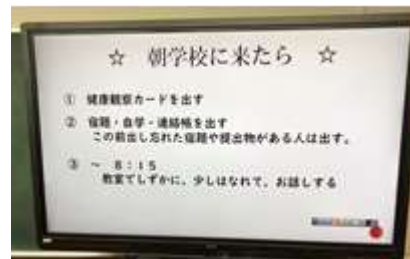
- ・村教育委員会で作成した「デジタル社会科副読本」を使って、調べ学習や参考資料の閲覧を行った。学校の周辺や村の様子を電子黒板で見ることにより、見学に行けない状況でも学習ができた。

教科等によらない汎用的な活用例

【一斉学習】

【朝の会、帰りの会】

- デジタル黒板を活用し、登校してからのやることリストを表示し（PowerPointを使用）可視化した。これにより、児童は見通しをもって主体的に準備に取り組むことができた。



【個別学習】

【第3～第6学年 単元の終末、休校期間】

- タブレットの「ジャストスマイルドリル」を使い、個別に復習に取り組んだ。個人のIDとパスワードを使うことで、自宅でもデジタルドリルに取り組むことができ、また、教員も子供達の学習状況をオンラインで把握することができた。



【協働学習】

【社会、図工等】

- 本校サーバー内の共有フォルダを使い、既習事項のデータを保存（PowerPoint・写真データ等）し、グループでの調べ学習の時に自由に参照できるようにした。子供達は自分の必要なデータをサーバーから読み込み、学習に生かすことができた。

【その他】

【学校ホームページの活用】

- 学校生活の様子や毎日の給食等を学校ホームページを使って、保護者に向けて発信している。更新はほぼ毎日行っている。保護者は自宅のPCやタブレット、スマートフォン等を使い、学校の様子を知ることができるので、保護者との情報共有につながっている。



【教職員 働き方改革】

- 校務支援ソフト「ミライム」を導入することで、日程や施設の予約状況、日直や出張などの情報を共有することができた。また、自分のタイミングで情報を確認することができ、働き方改革につながった。このソフト上でアンケートをとったり、掲示板で呼びかけたりすることで、業務改善ができた。

【教職員 同僚性を生かしたOJT】

- ICT教育マイスターが、ICT活用の実践例や先行事例などをまとめ、「ICTだより」として発行した。教員には、PDFデータで校務支援ソフトを利用して配付している。

成果・次年度に向けて

- 授業の中でタブレットを活用することで、子供達同士の情報の共有がスムーズになり、学び合いが活発になるきっかけになった。
- ICT機器により、学校にいながら学校外の講師や児童・生徒とつながることができ、効果的に学習を進めることができた。
- デジタルドリルを使うことで、子供達は楽しみながら既習事項の復習をすることができた。
- ICT教育を進める上での環境が整い、教員も子供たちも、ICT機器を普段使いしようとする意識が高まった。
- 校務支援ソフトを導入することで、教員間での情報共有がスムーズになり、打ち合わせを減らすことに成功した。
- 教科の本質を追究していくためのICT機器の効果的な活用方法については、今後自分の考えをまとめたり発表したりする場面での活用等、さらなる研究を進めていきたい。
- タブレットを家庭に持ち帰っての学習について、ルール作りや充電等の課題をクリアし、実現できるようにしていきたい。